

## 1. 蘚類

島根県は、東部の安来市から西部の益田市までのおよそ200kmにわたる細長い本土部と東経133°・北緯35°付近に浮かぶ隠岐諸島から成っている。本土部分の南部には中国山地が連なっており、鳥取・広島・山口の各県と接している。これらの山地には豊かな山林が育っている。島根県の蘚苔植物についての総括した報告書は見当たらないが、西中国山地の植物に関する学術報告(1966)によると、「本地域に産する蘚苔植物以上の植物は、蘚類200余種・苔類100余種・シダ植物90余種・裸子植物12種・被子植物750種である。これは広島・島根県下に産する全植物数の2/5ぐらにあたるのではないかと思われる」と記載されている。調査地域が標高350m内外から最高1,346mの範囲であって、低海拔の渓谷部には、温帯性植物が多く、蘚類においてもマゴケ亜綱の多くの蘚類が群落を形成して生育している。しかしながら、これらの群落の中には、暖帯系や亜高山系の蘚類が混在していることが報告されている。例えば、フジハイゴケ、チャボスズゴケ、コセイタカスギゴケなどの群落がみられる。また、低海拔の渓谷には、暖帯系蘚類のソリシダレゴケ、ムジナゴケ、ナワゴケなどが観察されている。そしてまた、山頂付近には亜高山地帯に生育しているクロゴケが、渓谷の森林内にはイワダレゴケ、タチハイゴケ、マキハヘチマゴケなどの群落が観察されている。また、山地の森林の林床には、オオミミゴケの群落がみられる。この種はシキムヒマラヤ、台湾、日本西南部の高山に飛び石的に分布している蘚類で、亜高山帯でも稀にみられ、中国地方では珍しい蘚類である。クロゴケは県東部の標高950mの岩上にも生育していることが報告されている。イワダレゴケは出雲部と石見部の境目にそびえる三瓶山の原生林内の腐植土上にフサゴケやフトリュウビゴケと共に大きい群落を形成している。県内には平地から標高1,200mまでの間に強い酸性(pH3—4.5)の多湿地が点在しており、そこには北周極要素のオオミズゴケ、ハリミズゴケの2種が、また水のしみ出る岩壁面や岩棚には熱帯要素のホソベリミズゴケが県下5カ所で観察されている。このホソベリミズゴケは懸崖性のミズゴケである。また、県内には渓谷や滝が多くみられるが、水しぶきのかかるような岩上にはクマノゴケが生育しているところが数カ所あるが、量的にはきわめて少ない。島根県は林業県でもあるが植林されたスギ林のスギの切り株上に生育しているハイゴケやトヤマシノブゴケの中にウチワチョウジゴケが観察されることがある。この仲間は配偶体の葉や茎が退化し、孢子体だけが生育するというまれなコケである。県内には神社仏閣が多い。石垣上にはギボウシゴケ、ヒジキゴケ、ミノゴケなどが、砂をひいた地上にはヤマトフデゴケ、ヒョウタンゴケ、シモフリゴケ、スナゴケ、やや湿った地上にはトサカホウオウゴケ、コバノチョウチンゴケ、ツルチョウチンゴケなどがみられる。境内にはスギの大木があり、その基部にはホソバオキナゴケ、カガミゴケなどが群落を作っている。山間部にある神社仏閣の石垣の隙間には、エビゴケ、アブラゴケが日陰のやや湿った地上や腐葉土上にはヤノネゴケ、ヒメハイゴケなどがみられる。県内のある古刹(寺院)での蘚類調査によると、スギゴケ科3属3種、ギボウシゴケ科3属5種、ヒラゴケ科1属3種、シノブゴケ科2属3種、アオギヌゴケ科5属8種など21科35種51種の生育が報告されている。この

古刹(寺院)での優占種をみると、地上ではウマスギゴケ、クロツリバリゴケ、アオシノブゴケ、トヤマシノブゴケ、ホソバオキナゴケ、ハイゴケなど、石垣や石灯籠の上ではギボウシゴケ、ヒジキゴケ、ネジクチゴケなどである。

## 2. 苔類・ツノゴケ類

県内産の苔類・ツノゴケ類に関する記録は島根県自然保護基本調査・中間報告(1972)で益田市高島の苔類・ツノゴケ類16種、第33回日本生物教育会全国大会記念誌「島根の生物」(1978)に113種、大万木山の蘚苔類(その1)(岡本、1975)に20種、「日本産苔類図鑑」(井上、1974、1976)に30種、「島根県大百科事典」山陰中央新報社刊(1982)に図解49種、同属種43、隠岐諸島の苔類(井上、1985)に72種がある。これら、県内産の苔類・ツノゴケ類については、「島根県産のタイ類・ツノゴケ類」(下瀬、2011)に、まとめられている。

これに未発表の資料を加えてまとめた県内産苔類は31科56属152種、ツノゴケ類は2科5属7種となっている。これは日本産苔類の総種数の約1/4。ツノゴケ類は約1/2にあたる。目種別にしてみると、ウロコゴケ目117種、コマチゴケ目1種、フタマタゴケ目17種、ゼニゴケ目17種となっている。植物体の莖や葉の区別が明瞭なウロコゴケ目のコケが約8割を占めている。ツノゴケ類7種はツノゴケ目。

井上(1985)は隠岐諸島の苔類フロラで特記すべきこととして、典型的な周極要素(寒地系)と目されるものが1種も含まれていないこと、また特異な点として、県内の他地域では知られているゼニゴケ属が隠岐諸島では完全に欠如していることが指摘されている。ゼニゴケ属のコケはどの種も鼓形が多細胞の無性芽を作ることとはよく知られている。この無性芽が履き物などに付着して運ばれる可能性は強い隠岐諸島であるが、どんな環境要因がゼニゴケの進入を阻むのか興味深い課題である。

コケ植物の分布に大きく影響するのは、気温や水分・湿度であることは高等植物と同じであるが、植物体が小さいコケは微細な気候的な条件にも支配されやすいという。また、コケは着生基物に支配され基物によって着生する苔類も異なる。この地方に多いヒメトサカゴケのように岩上、崖面、樹幹、朽木と着生基物が多様なものもある。

隠岐諸島の苔類は、県内の他地区の低地や山地の苔類と共通している。このことは沿岸部の常緑広葉樹林、背後に中国山地の落葉広葉樹林帯の山地をかかえている県東・中・西部地区の苔類に大きい相違はないように思える。

県内産の苔類を隠岐諸島に準じて3つの分布型にまとめてみると次のようになる(この中には隠岐諸島の苔類も含めてある)。

## (1) 東南アジアとの共通種(この地域の種が分布域を北上させて、県内にも分布しているグループ)

特に気温や湿度の影響を強く受けている種が多い。このグループは国内では、最寒月の平均気温5℃の等温線より南に東南アジアの苔類と共通なものが多いという。県内では沿岸部で浜田5.8℃、益田5.4℃でわずかに上回り、松江4.2℃、隠岐西郷は4.4℃でおよばない。温度だけでみると県東部より西部に東南アジア系のコケが多いように考えるが、苔類の分布に影響する他の

要因が働く。県内で最も平均気温が高い高島(益田市沖)では、クサリゴケ科のミヤジマヨウジョウゴケ、ナガシタバヨウジョウゴケの生育が確認されている。これらは太平洋沿岸では前者が静岡県まで、後者は関東地方まで北上してきている。どちらも樹幹や生葉に着生する小さな茎葉苔。

その他生葉上苔のカビゴケ、フルノコゴケ、シゲリゴケ、コムチゴケ、ヒラキバヤスデゴケ、シフネルゴケ、ヤマトフタマタゴケ、ヤワラゼニゴケなど29種。

(2) **東アジアとの共通点 (日本、中国、朝鮮半島、ヒマラヤなどに分布を広げているグループ。日本固有種も含まれる。)**

ヒメミノリゴケ、ムチゴケ、ミヤコノケビラゴケ、トサノケクサリゴケ、ケシゲリゴケ、クモノスゴケ、カンハタケゴケ、チジミカヤゴケ、チャボマツバウロコゴケ、フタバネゼニゴケ、ジンガサゴケなど95種。

(3) **北半球の広分布種 (温帯・冷温帯、世界的分布も含める)**

ミドリゼニゴケ、ウスバゼニゴケ、ケゼニゴケ、ホソバミズゼ

ニゴケ、チャボホラゴケモドキ、フクロヤバネゴケ、タマゴバムチゴケ、トサカゴケ、ヒメトサカゴケ、ホソバコオイゴケ、ヒメハネゴケ、エゾヒメヤバネゴケなど28種。

**3. 日本の貴重なコケの森 観音滝 (断魚溪・観音滝県立自然公園)**

コケ植物の研究者や愛好家が集う日本藓苔類学会では、希少種や絶滅危惧種が生育するか、あるいはコケ植物が景観的に重要な位置を占める地域を「日本の貴重なコケの森」として選定している。2024年には江津市の観音滝が32番目のコケの森として日本藓苔類学会から正式に認定された。中国地方では岡山県の羅生門ドリーネ、広島県の龍頭峡に次ぐ3番目のコケの森となる。観音滝は遊歩道が整備され、沢沿いの湿った岩上や土上、樹幹上で120種余りのコケ植物が観察できる。

(下瀬 敏・山口富美夫)

**藓苔類掲載種一覧**

計11種

**絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)**

- ・カビゴケ

計1種

**絶滅危惧Ⅱ類 (VU)**

- ・ハリミズゴケ
- ・クマノゴケ

計2種

**準絶滅危惧 (NT)**

- ・ウキウキゴケ (ウキゴケ、カズノゴケ)
- ・イチョウウキゴケ
- ◇ケクラマゴケモドキ
- ・オオミズゴケ
- ・ホソベリミズゴケ
- ・クロゴケ

計6種

**情報不足 (DD)**

- ・ヤワラゼニゴケ
- ・ホソクラマゴケモドキ

計2種

**【記号説明】**

- ・：カテゴリー区分変更なしの種 (10種)
- ↑：上位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- ↓：下位のカテゴリー区分への変更種 (0種)
- ：新規掲載種 (0種)
- ◇：情報不足からの変更種 (1種)
- ◆：情報不足への変更種 (0種)

**【掲載順の準拠文献等】**

片桐知之・古木達郎. 2018. 日本産タイ類・ツノゴケ類チェックリスト, 2018. Hattoria 9: 53-102.  
井上侑哉・山口富美夫. 2024. 日本産セン類の分類表. Hikobia 19: 105-124.

## 絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

クラマゴケモドキ目・クサリゴケ科

# カビゴケ

*Leptolejeunea elliptica* (Lehm. & Lindenb.) Besch.

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)

撮影者(提供者): 山口富美夫

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



蘚苔類

### 選定理由

渓流沿いのシダ植物や常緑樹の葉上などに生育する小形の苔類である。湿度の高い林内に生育し環境の変化を受けやすく、県内の生育地は極めて限られている。

### 概要

植物体は葉を含めて長さ5-10mm、幅0.7-1mm、茎は基物上をはって不規則に分枝する。葉は長楕円形で長さ0.3-0.5mm、幅0.15-0.25mm、基物に接するように開出する。植物体に独特な強い臭いがあり、カビゴケと名付けられている。植物体は小形で肉眼で探し出すことは難しいが、その匂いで存在に気づくことができる。臭いの元は、苔類の葉細胞に含まれている油体であるが、細胞が油体で満たされた眼点細胞がカビゴケの葉には点在している。クサリゴケ科は熱帯を中心に世界に広く分布する種で、苔類の中でも多様性に富んだグループである。国内にも22属、約130種が分布している。カビゴケを含むカビゴケ属苔類は国内に4種が分布し、そのうち3種は国内では南西諸島にのみ分布している。カビゴケは世界の熱帯や亜熱帯に広く分布し、国内では福島県以南~南西諸島に分布する。

### 参考文献

岩月善之助編(2001)日本の野生植物-コケ-。355pp。平凡社。東京。  
島根県環境生活部自然環境課(2013)改訂しまねレッドデータブック2013植物編-島根県の絶滅のおそれのある野生生物-。254pp。島根県環境生活部自然環境課。松江。  
内田慎治・関太郎(2023)島根県江津市付近の興味あるコケ植物。蘚苔類研究, 12(11): 291。

### 県内での生育地域・生育環境

これまで吉賀町(旧六日市町)でのみ知られていたが、近年江津市でも確認されている。照葉樹林内の湿度の高い林内および林縁部に生育し、常緑広葉樹、シダ植物、イヌガヤなどの針葉樹の葉、時に竹の稈や看板などの人工物にも着生する。

### 存続を脅かす原因

森林伐採や自然災害による生育環境の乾燥化。

(執筆: 山口 富美夫)

## 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

ミズゴケ目・ミズゴケ科

# ハリミズゴケ

*Sphagnum cuspidatum* Ehrh. ex Hoffm.

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
—	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

—

No Image

### 選定理由

北半球に広く分布する種ではあるが、中国地方では島根県、鳥取県、山口県の数か所で記録されているのみで、生育地は限られている。

### 概要

植物体は淡緑色、乾燥すると植物体は白くなる。植物体の長さは5-25cmにもなる大形の蘚類である。県外では中間湿原や高層湿原の池塘や地下水位の高い湿った場所に生育することが多いが、県内ではため池の水際で水中に没するように生育している。県内に生育するオオミズゴケでは茎葉の先は丸くなるのに対し、本種では鋭頭になり、枝葉はオオミズゴケでは楕円形になるのに対し、本種は長卵形で先が細長くとがるなどの違いがある。また、オオミズゴケは池の水際から離れた湿地や、林縁の地下水がしみ出ている地上に群落をつくることが多く、本種のように沈水して生育することはほとんどない。北半球に広く分布し、国内では北海道-九州に分布する。

### 参考文献

岩月善之助編(2001)日本の野生植物-コケ-。355pp。平凡社。東京。  
西田雄行(1964)島根県の蘚類(I)。島根大学教育学部附属中学校研究紀要, 7: 40-46。  
島根県環境生活部自然環境課(2013)改訂しまねレッドデータブック2013植物編-島根県の絶滅のおそれのある野生生物-。254pp。島根県環境生活部自然環境課。松江。  
滝田謙謙(1999)北海道におけるミズゴケの分布及びその変異について。Miyabea 4: 1-34。  
内田慎治・関太郎(2023)島根県江津市付近の興味あるコケ植物。蘚苔類研究, 12(11): 291。

### 県内での生育地域・生育環境

これまで松江市(旧岩坂村)、江津市で確認されている。松江市では1960年代まで生育の報告があるが、現在は道路工事により記録されていた生育地が消失している。また江津市では2011年までは確認されていたが、2023年の調査では確認できなかった。江津市の生育地では湿地が乾燥化して遷移が進み、維管束植物が繁茂したためと考えられる。本種はため池周辺の湿地にオオミズゴケなどととも生育するが、ため池の整備や開発、遷移などにより生育地が失われつつある。

### 存続を脅かす原因

土地造成、道路工事、遷移などによる生育地の消失。

(執筆: 山口 富美夫)

絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

## 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

イクピゴケ目・イクピゴケ科

# クマノゴケ

*Diphyscium lorifolium* (Cardot) Magombo

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

撮影者(提供者): 山口富美夫

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

情報不足 (DD)



### 選定理由

自然度の高い林内の溪流中あるいは溪流沿いの岩上に生育する。県内では生育地は限られており、個体数も少ない。

### 概要

茎は短く、葉を密につける。葉は長さ6-12mm、やや幅広くなった基部からひも状にのび、乾くとゆるく内側に巻く。葉基部以外では、葉の中肋は葉身の大部分を占め、横断面で見ると1細胞層の部分がなく、全体が歪んだ長楕円形になる。国内では本州~南西諸島、国外では朝鮮半島、中国、フィリピンに分布している。

### 参考文献

岩月善之助編 (2001) 日本の野生植物-コケ-. 355pp. 平凡社, 東京.  
島根県環境生活部自然環境課 (2013) 改訂しまねレッドデータブック2013植物編 -島根県の絶滅のおそれのある野生生物-. 254pp. 島根県環境生活部自然環境課, 松江.

### 県内での生育地域・生育環境

これまでに県内の数か所で知られているが、2023年の調査では雲南市で確認できた。本種はやや急な流れをもつ溪流で、水しぶきがかかるような岩上に生育する。全国的に見れば生育地はそれほど稀ではないが、県内では生育が可能な溪流が限られている。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、渓流域の開発、大雨などの自然災害。

(執筆: 山口 富美夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ゼニゴケ目・ウキゴケ科

# ウキウキゴケ (ウキゴケ, カズノゴケ)

*Riccia fluitans* L.

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

—



### 選定理由

湧き水のようなきれいな水の中に浮遊するように生育する。生育地は限られており、開発などのために全国的に減少しつつある。

### 概要

改訂しまねレッドデータブック2013植物編では、和名を「ウキゴケ」としていた。しかし、従来ウキゴケと呼んでいた苔類には複数の種が含まれていることが明らかになった。そのため古木(2020)は、真の *Riccia fluitans* の和名をウキウキゴケに改めた。葉状体は糸状で淡緑色、長さ1-5cm、幅0.5-1.2mm。イチョウウキゴケと同じウキゴケ科に属しているが、イチョウウキゴケのように水面に浮かぶことはなく、水中で浮遊するように生育する。世界に広く分布する。

### 参考文献

古木達郎 (2020) 新・コケ百選 第21回ウキゴケ科. 蘚苔類研究, 12(4): 106-117.  
岩月善之助編 (2001) 日本の野生植物-コケ-. 355pp. 平凡社, 東京.  
島根県環境生活部自然環境課 (2013) 改訂しまねレッドデータブック2013植物編 -島根県の絶滅のおそれのある野生生物-. 254pp. 島根県環境生活部自然環境課, 松江.

### 県内での生育地域・生育環境

これまでに県内の数か所で報告されている。湧き水が流れる水路中に生育する。

(執筆: 山口 富美夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ゼニゴケ目・ウキゴケ科

# イチョウウキゴケ

*Ricciocarpos natans* (L.) Corda

### カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 山口富美夫

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリ

準絶滅危惧 (NT)



蘚苔類

### 選定理由

かつては水田やため池などで普通に見られたが、近年急速に減少している。

### 概要

植物体は葉状で長さ1-1.5cm、幅0.4-0.8cm、二叉状に分枝してイチョウの葉のような形になる。葉状体の裏面には紫色で長いリボン状の腹鱗片をつける。その形と水面に浮遊するように生育することから、野外でも見つけやすい苔類である。世界に広く分布する。

### 参考文献

岩月善之助編(2001)日本の野生植物-コケ-, 355pp. 平凡社, 東京.

島根県環境生活部自然環境課(2013)改訂しまねレッドデータブック2013植物編 -島根県の絶滅のおそれのある野生生物-, 254pp. 島根県環境生活部自然環境課, 松江.

### 県内での生育地域・生育環境

生育量は激減しているが、稲刈り後の水田の湿った土上を丹念に探せば見つけ出せることが多い。おそらく、県内全域に分布していると推定される。ため池などの水面で浮遊する群落を見かけることもあるが、多くは水の張った水田に浮遊して生育し、稲刈り後は湿った粘土質の土上に張り付くように生育する。

### 存続を脅かす原因

農薬の過剰散布。稲作農法の変化。

(執筆: 山口 富美夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

クラマゴケモドキ目・クラマゴケモドキ科

# ケクラマゴケモドキ

*Porella fauriei* (Steph.) S.Hatt.

### カテゴリ区分

2004	2013/2014	2026
—	情報不足 (DD)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者): 山口富美夫

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリ

—



絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

### 選定理由

県内では生育地が限られており、生育量も少ない。

### 概要

植物体は黒味をおびた緑色で、長さ3-4cm、不規則に羽状に分枝する。葉は密に重なり合っており、葉先は腹側に巻く。中国山地に生育するニスビキカヤゴケに似ているが、腹葉が広い舌形で基部がやや狭くなることで区別される。国内では北海道、本州に、国外では朝鮮半島、サハリン、アリューシャン列島に分布する。

### 参考文献

井上浩(1976)続・日本産苔類図鑑, 193pp. 築地書館, 東京.

岩月善之助編(2001)日本の野生植物-コケ-, 355pp. 平凡社, 東京.

島根県環境生活部自然環境課(2013)改訂しまねレッドデータブック2013植物編 -島根県の絶滅のおそれのある野生生物-, 254pp. 島根県環境生活部自然環境課, 松江.

### 県内での生育地域・生育環境

山地のブナ帯より上部の樹林内で樹幹上に着生する。県内では恐羅漢山周辺での報告があるが、2023年の調査では大田市で確認された。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、自然災害。

(執筆: 山口 富美夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ミズゴケ目・ミズゴケ科

# オオミズゴケ

*Sphagnum palustre* L.

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):山口富美夫

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



蘚苔類

### 選定理由

県内では数か所で確認されているが、道沿いに生育することも多く、踏圧や採取によって生育地の減少が懸念される。

### 概要

植物体は立ち上がるように生育し、高さは8-15cm、黄緑色-淡緑色の群落をつくる。乾燥すると植物体は白くなる。茎葉は舌形で長さ2.0-2.4mm、葉先は丸くなってささくれる。枝葉は長さ1.5-2mm、広楕円形でボート状に深くくぼむ。ミズゴケ類の多くは高層湿原に生育するが、本種は常に水が供給されるような湿地であれば、人が往来するような道沿いでも大きな群落をつくって生育することもある。世界に広く分布する種で、国内で北海道-九州に分布する。

### 参考文献

岩月善之助編(2001)日本の野生植物-コケ-, 355pp. 平凡社, 東京.  
西田雄行(1964)島根県の蘚類(I), 島根大学教育学部附属中学校研究紀要, 7: 40-46.  
島根県環境生活部自然環境課(2013)改訂しまねレッドデータブック2013植物編-島根県の絶滅のおそれのある野生生物-, 254pp. 島根県環境生活部自然環境課, 松江.  
滝田謙謙(1999)北海道におけるミズゴケの分布及びその変異について, Miyabea 4: 1-84.  
内田慎治・関太郎(2023)島根県江津市付近の興味あるコケ植物, 蘚苔類研究, 12(11): 291.

### 県内での生育地域・生育環境

これまでに江津市、益田市、浜田市、松江市、奥出雲町で確認されている。ため池の周辺や地下水が浸み出ているような林縁部の湿地などに群落を形成する。

### 存続を脅かす原因

園芸目的の採取、人の踏圧。

(執筆: 山口 富美夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

ミズゴケ目・ミズゴケ科

# ホソベリミズゴケ

*Sphagnum junghuhnianum* Dozy & Molk.

### カテゴリー区分

2004	2013/2014	2026
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)

撮影者(提供者):山口富美夫

### 島根県固有評価

—

### 環境省カテゴリー

準絶滅危惧 (NT)



絶滅  
野生絶滅

絶滅危惧Ⅰ類

絶滅危惧Ⅱ類

準絶滅危惧

情報不足

### 選定理由

県内では生育地がごく限られており、生育量も少ない。

### 概要

多くのミズゴケ類は湿地や池の水際などに生育するが、本種は湿った岸壁に生育する懸崖性のミズゴケ類である。茎の長さは10-15cm、茎葉は二等辺三角形で長さ1.2-1.6mm、枝葉は披針形で長さ約2.5mm、上部は内曲して細くなる。国内では本州-九州に、国外では中国大陸、ヒマラヤに分布する。

### 参考文献

岩月善之助編(2001)日本の野生植物-コケ-, 355pp. 平凡社, 東京.  
西田雄行(1964)島根県の蘚類(II), 島根大学教育学部附属中学校研究紀要, 7: 40-46.  
島根県環境生活部自然環境課(2013)改訂しまねレッドデータブック2013植物編-島根県の絶滅のおそれのある野生生物-, 254pp. 島根県環境生活部自然環境課, 松江.  
滝田謙謙(1999)北海道におけるミズゴケの分布及びその変異について, Miyabea 4: 1-84.

### 県内での生育地域・生育環境

2024年の調査では江津市で確認している。奥出雲町(旧仁多町)でも報告があるが、現在その生育地は立入禁止となっていて確認できなかった。その他、広島大学植物標本庫には吉賀町(旧朝倉村)で1950年代に採集された標本があり、隠岐諸島からも報告されている。いずれも林内を流れる溪流沿いで、水がしみ出ている湿った岸壁上に群落を形成する。

### 存続を脅かす原因

森林伐採、道路工事、自然災害。

(執筆: 山口 富美夫)

## 準絶滅危惧 (NT)

クロゴケ目・クロゴケ科

# クロゴケ

*Andreaea rupestris* Hedw. var. *fauriei* (Besch.) Takaki

カテゴリ区分			島根県固有評価
2004	2013/2014	2026	—
準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	準絶滅危惧 (NT)	環境省カテゴリ
			—

No Image

**選定理由**  
 高地の日当たりのより岩上に生育するが、県内での生育地はきわめて少ない。

**概要**  
 植物体は小形で全体が黒赤色、莖は直立し高さ1-2cm、わずかに分枝する。葉は莖に密につき、卵状長楕円形で長さ0.6-0.8mm、中肋を欠く。胞子体は莖の先端に付き、蒴は卵状楕円形、蒴の上端部をのぞい

●参考文献  
 岩月善之助編 (2001) 日本の野生植物-コケ-, 355pp. 平凡社, 東京.  
 島根県環境生活部自然環境課 (2013) 改訂しまねレッドデータブック2013植物編 -島根県の絶滅のおそれのある野生生物-, 254pp. 島根県環境生活部自然環境課, 松江.

て4裂して胞子をとばす。胞子を放出した後の蒴は、あんどんのような形になる。国内では北海道-九州に、国外では中国、朝鮮半島に分布する。

**県内での生育地域・生育環境**  
 これまでに県内の山地の数か所から報告されている。標高約800m以上で日当たりのよい山頂域や尾根部など乾いた岩上に生育する。

**存続を脅かす原因**  
 登山者による踏み付け。

(執筆: 山口 富美夫)

## 情報不足 (DD)

ゼニゴケ目・ヤワラゼニゴケ科

# ヤワラゼニゴケ

*Monosolenium tenerum* Griff.

カテゴリ区分			島根県固有評価
2004	2013/2014	2026	—
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	環境省カテゴリ
			準絶滅危惧 (NT)

No Image

**選定理由**  
 県内では過去の記録はあるが、近年は確認されていない。全国的にも稀な種である。

**概要**  
 葉状体はみずみずしい緑色で、長さ2-4cm、幅5-8mm、二叉状に分枝する。葉状体内には油体を多く含む油細胞が散在し、葉状体を透かしてルーペで見ると、淡褐色の油細胞が点々と見える。雌雄同株。ほとんど無柄の雄托胞のすぐ先に円盤状の雌器托をつける。国内では関東以南の本州-南西諸島、国外では東アジア、ヒマラヤ、ジャワ、インド、ハワイに分布する。

●参考文献  
 井上浩 (1976) 続・日本産苔類図鑑, 193pp. 築地書館, 東京.  
 岩月善之助編 (2001) 日本の野生植物-コケ-, 355pp. 平凡社, 東京.  
 島根県環境生活部自然環境課 (2013) 改訂しまねレッドデータブック2013植物編 -島根県の絶滅のおそれのある野生生物-, 254pp. 島根県環境生活部自然環境課, 松江.

**県内での生育地域・生育環境**  
 広島大学植物標本庫には1930年代に松江市で採集された標本がある。耕作地や人家周辺の富栄養な湿った土上、側溝のコンクリート壁などに生育する。

**存続を脅かす原因**  
 生育環境の変化。

(執筆: 山口 富美夫)

## 情報不足 (DD)

クラマゴケモドキ目・クラマゴケモドキ科

# ホソクラマゴケモドキ

*Porella gracillima* Mitt.

カテゴリ区分			島根県固有評価
2004	2013/2014	2026	—
—	情報不足 (DD)	情報不足 (DD)	環境省カテゴリ
			—

No Image

**選定理由**  
 プナ帯以上の石灰岩地に生育するが、過去に出雲市で確認されて以来、生育状況は不明となっている。

**概要**  
 ケクラマゴケやクラマゴケモドキに似ているが、葉と腹葉の縁に歯がないことで区別される。国内では北海道-九州、国外では朝鮮半島、樺太に分布する。

●参考文献  
 岩月善之助・水谷正美 (1972) 現職日本蘚苔類図鑑, 405pp. 保育社, 東京.  
 島根県環境生活部自然環境課 (2013) 改訂しまねレッドデータブック2013植物編 -島根県の絶滅のおそれのある野生生物-, 254pp. 島根県環境生活部自然環境課, 松江.

**県内での生育地域・生育環境**  
 出雲市以外の生育の記録はない。プナ帯以上の石灰岩地の岩上や樹上に生育する。

**存続を脅かす原因**  
 不明。

(執筆: 山口 富美夫)

絕滅 野生絕滅

絕滅危懼 I 類

絕滅危懼 II 類

準絕滅危懼

情報不足